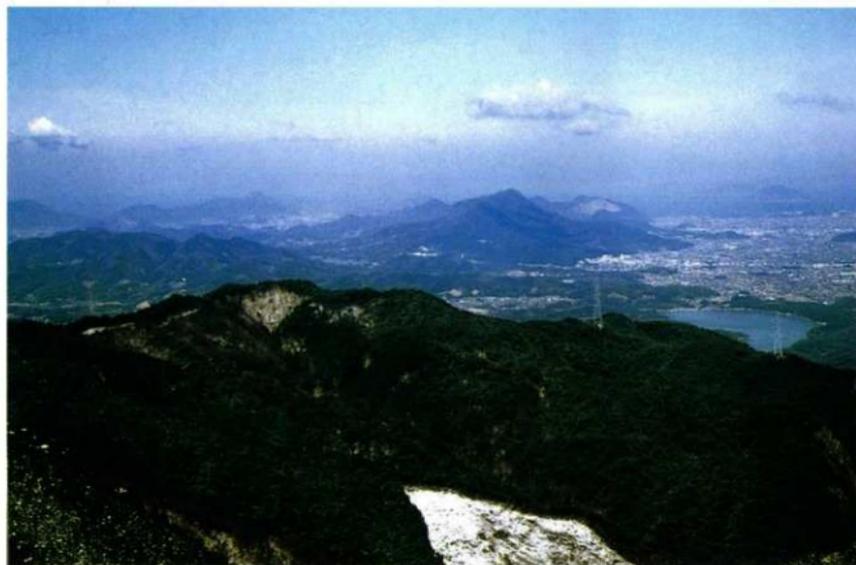


琴南町内遺跡発掘調査報告書 第1集

中寺廢寺跡

平成 16 年度



2005年3月

琴南町教育委員会



A) 第3テラス完掘状況（北西より）



B) 第2テラス完掘状況（南東より）

序 文

このたび、多くの方々のご高配とご尽力により、中寺廃寺跡の第1次年度の発掘調査が進められ、ここに平成16年度の報告書を取りまとめる事が出来ました。関係者の一人として、心からうれしく思いますとともに、多くの皆様に衷心より厚くお礼を申し上げます。

本廃寺跡は、『讃岐廻遊記』や地元旧庄屋さんの『日帳』に寺名が見られる程度でありまして、今のところ詳しいことを記した古い時代の文書は見つかっておりません。近隣市町のお寺の中には、そもその発祥地は、大川山中であったと言い伝えられているお寺も在りますが、確たる証拠は見つかっておりません。また、そうした言い伝えの他に、昔から一部地域の住民の間に、大川山の山中に、いくつものお寺が在ったということが断片的に語り継がれております。いずれにしても、詳しいことは、ほとんど分からないまま年月を重ねて今日に至っております。

そうした中で、地元の歴史・文化に格別の篤志をお持ちの方々が、昭和59年4月18日から同年5月15日まで県教育委員会のご指導を頂きながら、今回の調査地点を中心に近辺の調査を行っております。そして、今回の調査地点でもありますA地区第3テラスから、何点かの壺、甕、礎石を発見し、この地にまちがいなく古代の山岳寺院があったことを確認して発掘調査を終息しております。当時、遺跡の分布や遺構の規模等については、詳しく調査研究するまでは至っておりません。その後、伝承に言う「大川山七坊跡」はじめ、標高700メートル地帯の山岳に塔堂伽藍がどう展開していたのか、連絡路は、水源は、等々、広範囲に再調査、再発掘を求める声が町内外から高くなり、今回、文化庁、並びに、県教育委員会のご指導、ご援助を頂いて本格的な調査研究に着手した次第であります。

本年度の調査内容につきましては、以下の報告書に譲ると致しまして、はるか千年もの昔、この地の、これほどの高地に、しかも、これほどの山中に、お寺が点在したらしいことは、ただただ驚くばかりであります。学問的にも文化的にも興味は尽きない思いではありますが、特に、歴史の光の当たることの少なかった山峡の一寒村にとって、この発掘調査の持つ意味は、極めて大きいものがあると思っております。本事業は、まさに緒についたばかりではありますが、遺跡千古の眠りを破ろうとする同人とともに、手を携え真摯に発掘調査研究を進めてまいりたいと願っております。

末筆になりましたが、本発掘調査研究に格別のご協力とご指導を頂いております関係の皆様から深く感謝を申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。序文に代えさせていただきます。

平成17年3月

琴南町教育委員会

教育長 三好和榮

例 言

1. 本書は、琴南町教育委員会が文化庁と香川県の文化財補助金を受けて平成16年度国庫補助事業として実施した、琴南町内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 今回の遺跡発掘調査は、香川県仲多度郡琴南町造田3469-2に所在する中寺廃寺跡を対象とした。
3. 発掘調査は琴南町教育委員会が行い、同主事加納裕之が担当し、同臨時職員中山尚子がこれを補助した。
4. 遺構実測は加納・中山が行った。遺構・遺物の写真撮影、報告書の執筆・編集は加納が行った。遺物実測、遺構遺物の浄書、図面のレイアウトは中山が行った。
5. 本書の実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。また図中の方位・座標は国土座標第Ⅳ系（世界測地系）による。標高はT. P.（東京湾平均海面）からのプラス値である。座標・標高の記載はすべてm単位である。
6. 出土遺物・写真・図面等の調査成果物は琴南町教育委員会にて保管している。
7. 挿図の一部に国土地理院発行の5千分の1国土基本図を複製した琴南町全図（承認番号四複第238号）を使用した。
8. 遺構は下記の略号によって表示している。
SP 柱穴
9. 調査の実施から本書の執筆に至るまでは、以下の方々や諸機関のご指導・ご協力をいただきました。記してお礼申し上げます。
伊賀正法・上原真人・大久保徹也・片桐孝浩・北野信彦・木原博幸・上里寛康・後藤健一・菅原良弘・高木敬子・谷山謙・中山正樹・丹羽祐一・西本英里香・細川健一・松田英治・山下平重・山元敏裕・山本秀夫・香川県立文書館・香川県歴史博物館・琴南町文化財保護協会・徳島文理大学学生及び大学院生・永覚寺・円勝寺・大川神社・浄楽寺・長光寺・浄蓮寺・称名寺・長善寺・妙覚寺（敬称略・五十音順）

目 次

図 版 目 次

1. 遺跡の環境.....	(1)
(1)遺跡の立地 (2)歴史的環境	
2. 調査の経過.....	(3)
(1)調査の経緯 (2)平成15年度調査成果 (3)中寺廃寺跡調査・整備組織 (4)調査の経過	
3. 遺構.....	(8)
(1)概要	
(2)第3テラス	
①平坦地の造成 ②塔跡礎石 ③溝状遺構	
(3)第2テラス	
①平坦地の造成 ②掘立柱建物跡 ③礎石建物跡 ④溝状遺構	
(4)第1テラス	
①平坦地の造成 ②検出遺構	
4. 遺物.....	(25)
(1)概要	
(2)第3テラス	
(3)第2テラス	
(4)第1テラス	
5. 文献調査.....	(31)
(1)概要	
(2)西村家文書の調査成果	
6. まとめ.....	(37)

挿 図 目 次

第1図 中寺廃寺跡位置図 (1)	第10図 第2テラス断面図 (1)
第2図 中寺廃寺跡位置図 (2)	第11図 第2テラス断面図 (2)
第3図 中寺廃寺跡平坦地分布図	第12図 第1テラス断面図
第4図 A地区第1～第3テラス全体図	第13図 第1テラス遺構平・断面図
第5図 第1～第3テラス土層柱状図	第14図 第3テラス遺物出土状況平面図
第6図 第3テラス塔跡礎石平面図	第15図 第3テラス出土遺物実測図
第7図 第3テラス断面図 (1)	第16図 第3テラス心礎下部遺構平面図及び出土遺物実測図
第8図 第3テラス断面図 (2)	第17図 第2テラス遺物出土状況平面図
第9図 第2テラス掘立柱建物跡・礎石建物跡平面図	第18図 第2テラス出土遺物実測図

表 目 次

- 第1表 香川県内山岳寺院関係遺跡一覧
第2表 中寺廃寺跡出土遺物観察表(1) 土器
第3表 中寺廃寺跡出土遺物観察表(2) 鉄製品

挿 入 写 真 目 次

- 写真1. 第1回調査・整備委員会の様子
写真2. 調査・整備委員現地視察の様子
写真3. 発掘作業風景
写真4. 現地説明会の様子
写真5. 「西村家文書」中寺廃寺跡周辺の絵図

写 真 図 版 目 次

- 図版1. A) 第3テラス完掘状況(北西より) B) 第2テラス完掘状況(南東より)
図版2. A) 中寺廃寺跡遠景(南東より) B) 第3テラス調査着手前状況(西より)
図版3. A) 第3テラス3-b~3-b'断面 礎石以西(南より)
B) 第3テラス3-b~3-b'断面 礎石以东(南より)
図版4. A) 第3テラス3-c~3-c'断面 礎石以南(西より)
B) 第3テラス土壇南側法面検出状況(南東より)
図版5. A) 第3テラス3-c~3-c'断面 平坦地北端(西より)
B) 第3テラス溝状遺構完掘状況 礎石以西(南西より)
図版6. A) 第2テラス調査着手前状況(南東より)
B) 第2テラス掘立柱建物跡・礎石建物跡検出状況(北西より)
図版7. A) 第2テラス掘立柱建物跡柱穴と礎石建物跡礎石の切りあい(上が北)
B) 第2テラス2-a~2-a'断面 東から2番目の柱穴(南より)
図版8. A) 第2テラス2-c~2-c'断面 平坦地北端(西より)
B) 第2テラス南側の緩斜面(南東より)
図版9. A) 第1テラス調査着手前状況(南より) B) 第1テラス完掘状況(東より)
図版10. A) 第3テラス出土遺物(内面) B) 第3テラス出土遺物(外面)
図版11. A) 第2テラス出土遺物(内面) B) 第2テラス出土遺物(外面)
図版12. A) 第3テラス出土須恵器転用硯 B) 第2テラス出土土師器坏内面
図版13. A) 鉄製品X線透過写真(1) B) 鉄製品X線透過写真(2)

1. 遺跡の環境

(1) 遺跡の立地

琴南町は四国香川県の中央部南端に位置する。徳島県との県境である讃岐山脈を水源とする本県唯一の級河川である土器川が、北西の丸亀平野へ向かって琴南町の中央部を貫流している。町内は土器川沿いの造田地区^{そうだ}と中通地区^{なかつう}の所在する盆地の他は、一部山間部の平坦地を含む山岳地帯と峡谷からなる。

琴南町は山深い地域でありながら、金毘羅街道の一つである阿波街道の阿讃国境の村として、古くから開かれた地域であり、借耕牛^{かりこうし}、通婚圏、商業圏などにおいて香川の中でも徳島との関係が深い地域である。

今年度の調査区である中寺廃寺跡A地区は大川山(1,043m)の西側へ向かう尾根から北西へ分岐した一支脈の稜線から南東へ向かって下る緩斜面上に立地する。付近の尾根上には現在の行政区画である仲多度郡の琴南町・仲南町・満濃町が接する位置に三角点があり、そこから日本最大のため池である満濃池を一望することができる。

中寺廃寺跡から現在集落が営まれている琴南町造田地区・中通地区の盆地へ向けての視界は尾根によって遮られているが、南東方向への視界は開けており、古くからの信仰の対象である大川神社が所在する大川山山頂を望むことができる。

また、中寺廃寺跡が立地する尾根付近は、讃岐山脈を経由して、徳島と琴南町柞野^{くさの}・満濃町江畑・仲南町塩入へと至る尾根沿いの道があり、炭の運搬路として昭和時代まで利用されていた。

このように俗世と一定の距離を置く山中の奥深くでありながら、讃岐・阿波をつなぐ交通の要所でもあることが、中寺廃寺跡が当地に立地する一つの要因と考えられる。

(2) 歴史的環境

琴南町内では現在まで旧石器時代の遺跡は未確認であったが、今回の中寺廃寺跡の調査において遺物を確認した。縄文時代の遺跡では備中地遺跡において早期の押型文土器を確認している。弥生時代の遺跡では備中地遺跡において後期の遺物を確認しているほか、庵山遺跡において太型蛤刃石斧が採集されている。古墳時代の遺跡では横穴式石室とされる椀袋塚古墳が唯一現存するのみである。古代の遺跡では今回報告を行う中寺廃寺跡のみを確認している。中世の遺跡では、中寺廃寺跡D地区としている椈の窪遺跡より遺物が採集されている。中世から近世にかけての遺跡では造田城跡・中通山城跡・備中地域跡などを確認している。

香川県内に所在する山岳寺院関連遺跡は仲南町尾ノ背廃寺、高松市屋島千軒堂跡、さぬき市寺尾廃寺跡が挙げられる(第1表)。中でも仲南町尾ノ背廃寺跡は尾根を介し、中寺廃寺跡との関係が特に深いものと思われる。



第1図 中寺廃寺跡位置図(1)



第2図 中寺廃寺跡位置図(2)

遺跡名	主要遺構	時期	所在地	標高
中寺廃寺跡	掘立柱建物跡 ・礎石建物跡 (塔・仏堂)・ 集石遺構	10世紀前半～ 11世紀	香川県仲多度郡琴南 町造田	670～730m
尾ノ背廃寺跡	集石遺構・礎石 建物跡・列石	12世紀	香川県仲多度郡仲南 町大字七箇字仁尾	470～520m
千軒堂跡	礎石建物跡・集 石遺構	9世紀後半～ 12世紀末	香川県高松市屋島西 町北嶺山上国立公園 内	285m
寺尾廃寺跡	不明	不明	香川県さぬき市鶴羽 長見山山中	303m

第1表 香川県内山岳寺院関係遺跡一覧

2. 調査の経過

(1) 調査の経緯

調査地付近は「中寺」・「信ヶ原(=のべがはら)」という字名で呼ばれ、付近にある「鐘ヶ窪」
「松地(=末寺)谷」という地名と、寛政11(1799)年に記された『讀岐遍遊記』中に「中寺」
の表記があること、大川七坊といわれる七つの僧坊が山中にあったという伝承が付近の集落に
残ること、中寺に所在したと言われている僧坊が室町時代に寺院となり、町内外の各地に移っ
たとされることにより、寺院の存在を示す根拠とされていた。しかし、文献資料に寺院の詳細
が記されたものは未確認であり、中寺廃寺跡については長らく幻の寺院とされてきた。

昭和56年に中寺廃寺跡の所在を確認するため詳細な分布調査を実施し、数ヶ所の平坦地を確
認した。それぞれの平坦地において礎石と思われる石が等間隔に並ぶ状況を確認した。続いて
昭和59年にボーリング棒による調査を実施し、第2テラスで礎石を確認した。また第3テラス
においては試掘調査を行い、塔跡と考えられる中央に心礎石を持つ3間×3間の礎石建物を確認
した。心礎石の下部からは地鎮・鎮壇具と想定される10世紀前半の遺物が出土し、中寺廃寺
跡は少なくとも10世紀前半に塔が建立されたと考えられる。



第3図 中寺廃寺跡平坦地分布図

(2) 平成15年度調査成果 (第3図参照)

これらの調査成果を受け、琴南町は県内でも例の少ない山岳寺院である中寺廃寺跡を調査・整備・活用していく方針を決定し、平成15年度に琴南町教育委員会が香川県教育委員会文化行政課の協力のもと現地踏査を行った。その結果、約1,000mの範囲に遺跡が展開していることが判明した。また、遺跡は大きく4つの地区に分けることが可能であり、A～D地区とした。それぞれの地区の詳細は以下の通りである。

^{あびなみでら}
A地区…字中寺の中央に位置する地区である。6ヶ所の平坦地から構成され、そのうち1ヶ所の平坦地より塔跡を確認しており、A地区は中寺廃寺跡の中心地区であったと考えられる。また、塔心礎石の下部から10世紀前半の遺物が出土しており、塔の建立時期を示す根拠となる。他の平坦地においても礎石が確認され、寺院の中心的な建物の存在が予想される地区である。

B地区…A地区から東へ約300m離れた丘陵先端部において確認された地区で、5ヶ所の平坦地からなる。一部の平坦地においては、40~50cm程度の直線的に並ぶ石を確認しており、礎石建物跡の存在が考えられる。

また、平坦地付近で生活用貯水池の可能性が考えられる直径4m、深さ1mほどのくぼみを3ヶ所連結状に確認している。

C地区…A地区から南へ約400m離れた丘陵斜面部において確認された地区で、3ヶ所の平坦地からなる。最も低い平坦地では人頭大の角礫を直径約1~2m、高さ約70cm程度積み上げた集石状遺構が10基ほど散在しており、集石墓の可能性が考えられる。

さらに、この平坦地では高さ約30cmの土壇状の遺構も確認している。

D地区（桜の窟遺跡）…A地区から南へ約900m離れた丘陵斜面部において確認された地区で、4ヶ所の平坦地からなる。他の地区に比べ最も広い平坦地を有し、50~80cm程度の石が露出する状況から、A・B地区同様に礎石建物跡の存在が考えられる。

また、昭和59年度調査において中世・近世の遺物を表採しており、中寺廃寺跡が中世以降に継続した地点と推測される。

A・C・D地区で確認した平坦地は標高約700~730mの間に立地している。B地区は若干低く675~700mに平坦地が立地する。すべての平坦地は尾根を背後にし、一段下った緩斜面上に立地する。これは冬季間、強く吹き上る谷からの風を尾根によって防ぐための立地と考えられる。

字中寺の範囲は馬蹄形を呈し、中央屈曲部にA地区、両辺の中央にB・C地区がそれぞれ立地する。

(3) 中寺廃寺跡調査・整備組織

中寺廃寺跡調査・整備組織は以下の通りである。

調査指導 中寺廃寺跡調査整備委員会

委員	上原 真人	(考古学 京都大学大学院教授)
	丹羽 祐一	(考古学 香川大学教授)
	木原 溥幸	(文献史学 徳島文理大学教授)
	伊賀 正法	(琴南町文化財保護審議会会長)
	菅原 良弘	(琴南町文化財保護協会会長)
	稲毛 義典	(琴南町町長平成16年10月13日まで)
	佐野 利昭	(琴南町町長平成16年10月14日から)
	三好 和榮	(琴南町教育委員会教育長)
オブザーバー	山下 平重	(香川県教育委員会文化行政課主任)

調査担当 琴南町教育委員会

総括	雨霧 弘	(琴南町教育委員会課長補佐)
調査担当者	加納 裕之	(琴南町教育委員会主事)
調査補助員	中山 尚子	(琴南町教育委員会臨時職員)



写真1. 第1回調査・整備委員会の様子



写真2. 調査・整備委員現地視察の様子

(4) 調査の経過

これまでの調査成果を基に、平成16年度は中寺廃寺跡の中心と考えられるA地区において測量調査・発掘調査を実施した。夏から秋にかけて現地作業と並行して文献調査を実施し、冬季は報告書作成期間とした。

6月上旬より測量調査・発掘調査の準備を進め、6月下旬より調査区全体の地形測量を業者に委託した。併せて各平坦地について詳細な地形や石などのデータを取りながら、調査員が平板測量を行った。これらの測量図を基に第1回調査・整備委員会を8月3日に開催し、今年度の調査方針を決定した。第3テラスの発掘調査に8月上旬より着手し、9月上旬より第2テラス、10月下旬より第1テラスの調査を平行し進めた。調査成果を広く公開する目的で現地説明会を10月31日に開催し、県内外より約100人の参加者があった。調査終了後に調査区の埋め戻しを行い、11月30日までに終了した。その後、第2回調査・整備委員会を1月29日に開催し、今年度調査成果の報告と今後の調査・整備方針について協議した。

整理作業は発掘調査終了後に報告書掲載図面の整理・浄書・レイアウトを行い、2月から3月にかけて報告書印刷を業者に委託した。



写真3. 発掘作業風景



写真4. 現地説明会の様子

註1. 進藤政量 「蹟岐廻遊記」 寛政11(1799)年に、

中寺 昔し此中寺に行法不思議の住僧有。飛鉢の法を行ひ、香西の沖へ鐵鉢を浮、
中寺にて行ひけるに、迺船と見掛此鉢道懸米を乞。鉢に米満るや否や、其鉢
則空中に飛上り、中寺に飛歸りけると也。米を入れされは、彼鐵鉢より火炎
燃出、迺船を追かけしと也。依て今俗説に負め催足の急なるを、火はちか付
と言習せなり。

と記載されている。

(「香川叢書」第3巻所収、1943年刊)